



NO. 679
2001年4月6日

THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

ROTARY 2001 : CREATE AWARENESS — TAKE ACTION

「ロータリー2001：意識を喚起し一進んで行動を」

2000～2001年度・国際ロータリーテーマ／フランク・J・デブリン会長

「さわやかに全員参加で行動を」

2000～2001年度・東京新南ロータリークラブテーマ／山下忠治会長

本日の例会 4月6日 第696回例会
卓話

「『ロータリーの友』の周辺」

第2580地区パストガバナー

東京北ロータリークラブ会員 中村 昌平氏

『ロータリーの友』委員長

本日のロータリーソング「君が代」「我等の生業」

本日の演奏 ピアノ 大澤 美紀さん

メンデルスゾーン作曲「無言歌集」より春の歌、Op. 38-2
バッハ作曲「平均律第一巻」より、等

先週報告 3月30日 第695回例会



◎ブッフエスタイル例会のため
卓話はありませんでした。

◎幹事報告

①5月8日から22日までソウル
で「アジア平和のための国際
少年Forum」が開催されます。

②サンアントニオ国際大会（6月24～27日）の「日米
親善朝食会」（6月25日）への申込は、5月10日まで
をお願いします。

③4月20日（金）例会後、第2回クラブフォーラムを「例
会のあり方について」というテーマで開催します。
皆様のご出席をお願いします。

◎社会奉仕委員会報告（吉田副委員長）

風の子会主催の「障害者は外に出よう『大江戸線DE
ハイク』」が6月3日に開催されます。

日 程

5月19日（土）参加者の顔合わせと当日のルートを決める集会
※会場は、港区立障害保健福祉センター

6月3日（日）外に出よう「大江戸線DEハイク」

※雨天の場合10日（日）に延期

希望者は4月27日までに事務局までお申し込み下さい。

◎慶事披露 誕生日祝／佐々木忠行君（3月30日）

◎出席報告

会員68名／出席42名／欠席26名（出席規定免除者6名）
ビジター4名

次週予告 4月13日 第697回例会

卓話予定

「メディアと危機管理」

毎日新聞 代表室長 取 達 孝 昭 氏



3月30日／14件32,000円

2000～2001年度累計1,541,000円
多額の御寄付を有難うございました。

入沢頼二／皆様、素晴らしい会員をご紹介頂き、ありが
とうございます。引き続き宜しくお願いします。小湊雅亮／
今年度も無事終了しました。とに角経営は大変ですね。加
藤昌明／桜が満開です。岩瀬秀郎／桜が満開です。お陰で
九段は毎年混雑します。嬉しくもあり、迷惑でもあり。小
原健／桜の満開が楽しみです。川鍋二郎／桜が満開です。
皆様ご無沙汰しております。小杉さん、ニコニコ受付代行
ご苦労様です。後藤完夫／ご無沙汰して申し訳ありませ
ん。市川徹／石坂さん、有難うございました。本嶋公民／
週報担当のピンチヒッターをやりましたが、不手際があ
りました。山中さんのお手伝いがなければ、週報発行でき
ませんでした。有難うございました。荻野道雄／代打の小
杉さん、こんにち。ご苦労様です。吉岡琢磨／小杉さん、
ご拝顔して何となく。渡部一元／小杉さんがニコニコ担
当なので。横山秀明／小杉眞史さんにいつもお世話に
なっているので。小杉眞史／桜が満開です。ピンチヒッ
ターですが、久しぶりのニコニコです。（柴田さん、昨日
は有難うございました）

第5回クラブ協議会

「ロータリークラブの社会奉仕の社会性を熱く語ろう」

（と き）2001年3月23日（金）例会後13:40～14:50



（ところ）東京全日空ホテル
地階 八雲の間

（出席者）荒木、福島、入沢、石井、
岩上、梶内、加藤、河原、小杉（眞）、
大日方、四分一、島田、新保、庄司、
高須、武下、渡部、渡邊、横山、吉田
（計20名 敬称略）

今回のクラブ協議会は社会奉仕委員会の担当のもと、
委員長が今年度の委員会の活動について説明、その後
渡邊委員から風の子会主催の「障害者は外に出よう」
について案内と参加要請があった。次に吉田副委員長
が、ボランティア活動に参加することで実体験でしか
感じられない喜びや奉仕の心について語り、荒木会員
からは、単年度事業と通年継続事業について意義深い
説明があった。なお今回は意見交換の時間を長く取り、
出席者の方々の意見を多数聞かせて頂くことができた。

このクラブ協議会での意見を今後の委員会活動に生
かして行きたいと思う。なお、予定していた阪口委員

の提案は、本人欠席のため内容の説明に留め、次の機会への研究課題とすることにした。（四分一委員長）

1. 公共放送へのパブリシティ活動について（阪口委員）

私の提起は、従来の地域を中心に考えた奉仕活動、地域からの要請に基づいた奉仕活動に対し、一步踏み出した活動アイテム（コンテンツ）の開発を主眼とした発想である。本日の議題は正確には「社会奉仕の社会性をアピールできるメディア開発」となり、公共電波（TV、ラジオ）の利用も一例とする提起である。「メディア開発」が出できれば、広報・情報委員会でその具体的、効果的な利用を検討の上、ロータリー情報を発信すればよい。即ち、委員会同士のジョイント・ミックス効果探求の提起である。縦割り委員会になり勝ちな委員会組織を横並びで相互補完する発想、奉仕活動への一助になればとの提起。「社会奉仕委員会」の単年度活動と同時に、「委員会相互」連携活動の発想是非を議論のテーマとして頂ければ幸甚である。

2. 全員参加の体験を通して（吉田副委員長）

「社会性」についての定義を辞書で見ると、個人性に相対するもの、ある社会に特有な性質、集団生活をするために必要な能力や資質、とあった。

つまりロータリーの社会奉仕活動には、個人性と社会性の二つの側面があることを前提にしていると考えなければ本日の議論は成り立たないことになる。

その場合、個人性とはクラブ内部、または会員の個人そのものを指し、社会性とは、クラブを離れた、地域社会や、国家社会その他ロータリークラブ以外の集団または団体に向けられたものと考えて良いのではないだろうか？つまりロータリーの社会奉仕活動には、会員個人に奉仕の精神や奉仕の喜びを喚起し、その心を養うという側面と、外に向かってニーズに合った奉仕をするという側面の二面性があると思う。望ましいのは、この二つを兼ね備えた活動である。

全員参加の体験という場合何を指して全員参加というのかが問題になる。率直に申し上げて当クラブのこれまでの社会奉仕活動の中では、前に述べた個人性と社会性を兼ね備えたかたちでの全員参加は無かったと思う。二つを兼ね備えることが難しいのにその上全員参加というのは至難の業といえよう。アイメイトや世田谷の泉の家に対する奉仕活動は非常に盛り上がった奉仕活動といえようが、これは多くの会員が現場を訪れ、そこの人々と語り合い気持ちが触れ合い、寄付をすることの意義や意味を十分理解し、現地に行けなかった人も巻き込んだ活動であったからと考える。その意味では、寄付をすることについて会員全員のコンセンサスを十分得た上での活動であったので社会性からみれば全員参加の社会奉仕活動であったと言えよ

東京新南ロータリークラブ

会長：山下忠治 副会長：加藤昌明 幹事：梶内滋男
事務局：〒107-0052 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階
TEL: 03-3505-5976 FAX: 03-3505-6004
例会日：毎週金曜日 12時30分
例会場：東京全日空ホテル 〒107-0052 東京都港区赤坂1-12-33 TEL: 03-3505-1111

う。逆に個人性の面で全員参加というのはそれぞれ個人の心は千差万別であり、私個人の経験から考えると、参加して、そこで感動があって、始めて奉仕の心が芽生え、養われると思う。結果は別にして、個人性の面からも参加することにより、チャンスが生まれるのであり、参加しなければ、可能性ゼロなのだから、極力多くの、出来れば全員参加を目標とすべきことはいうまでもない。

3. 単年度と継続事業について（荒木委員）

継続事業と比較すると、単年度事業の利点は、①他年度を拘束しない、②マンネリにならない、継続の利点は、①深みのある奉仕活動になる、②継続しないと意味のない場合がある、等だが、各々利点も欠点も有る。

過去唯一の継続事業としては、創立10周年記念事業として港区社会福祉協議会と提携し、「東京新南ロータリークラブボランティア活動助成事業」という名称で期間3ヶ年、助成資金150万円の内容で継続事業を実行した例が有る。

この記念事業といえども継続事業となることから、10周年実行委員会及び理事会において、慎重に討議した上で決議に至った。

単年度と継続の議論は従来からもあったが、単年度制をロータリーが何故採用し続けているのかを理解した上で、クラブの総意として本当に必要と認められる継続事業であれば単年度制の原則に拘わることはないと思う。

次に“社会性”についてだが、当クラブの社会奉仕委員会グループには地域社会調査委員会が設置されている。委員会設置の構想は数年に跨り地域社会における社会奉仕のニーズを調査・研究する為であり、委員の構成も出来ればロータリー情報・職業分類両委員会同様に複数年制が好ましいと理解している。この委員会を有効活用することにより、単年度事業でも継続事業に劣らない意義ある社会性のある社会奉仕活動案件が誕生するのではないと思われる。

まとめ（クラブ奉仕委員長 加藤昌明）

都心部のロータリーとして社会奉仕とどう取組むかについて熱っぽく各方面からの検討が行われ、あらかじめ発言が意図されたものではなく自由な討論をかみしめた。そして、参加できて良かったとの実感が得られた。

風の子会行事への体験ボランティア活動、港区社会福祉協議会との継続連携活動等、一層の推進と体験を行いたいとの決意を新たにした次第である。

<会報委員> 下線は、今週の担当

青野 信次、福島 賢哉、石川 泰啓
清原 元輔、本嶋 公民、村山 公士
庄司 泰典、高須 康有、土屋 東一
圓谷 正和、山川 政樹